「この人 35」　桜井宇久夫 70歳 千葉県

編集部　滑稽俳句を始められたきっかけは？

桜　井　若い頃から、詩や和歌は続けておりましたが、七年前、入院中に「ＮＨＫ俳壇」と句帳を差し入れしてもらい、投句を始めました。ＮＨＫ俳壇では特選二回、「サンデー毎日」の投句欄でもユーモア第一に投句して、時々入選。滑稽俳句協会の発足を知って、勇んで参加しました。

編集部　滑稽俳句の魅力とは何でしょうか。

桜　井　自由自在であることだと思います。全ての俳句が滑稽である必要はないでしょうが、俳句作家は、様々な視点をもっていることが大事です。山本健吉氏の言う俳句の本質の一つとして、滑稽は重要と思います。基本は写実ですが、うわべだけの滑稽にならないように、それを突き詰めなければならないと思います。

編集部　滑稽俳句を続けて良かったことは？

桜　井　今や、滑稽俳句が作句の中心。「滑稽」のお蔭で、自身の内面の暗さを外に出さずにすんでいます。

編集部　滑稽俳句をつくるコツは何でしょうか。

桜　井　まずは、とにかくたくさん作ること、そのために、エネルギッシュでいることですね。

編集部　これからも、エネルギッシュにご活躍を。

＜代表句＞

ますますに恐ろしき夏三鬼居ず
入歯失せ顔の縮まる残暑かな
運動会女性校長号砲撃つ
八百長の屋号で安き春野菜
蛇の子が龍といふ妙山笑ふ

滑稽俳句協会ホームページに掲載の記事・写真・イラストなど、
すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。